



# 古伊万里植物図鑑展

会期  
二〇一八年七月四日（水）～九月二十二日（土）

## 夏休み！特別企画

キッズ学芸員 ～うつわを守る ふろしきの包み方～

- 7月 28 日（土）・29 日（日）
- 28 日（土）14:00～15:00／29 日（日）11:00～12:00
- 学芸員の大切な仕事のひとつ、木箱と風呂敷を使ってやきものの仕舞い方を体験していただきます。
- ご参加の皆様に 戸栗美術館特製風呂敷をプレゼント。
- 参加費 1人 500 円  
(各回定員 3名。当日受付にてお申し込みください。保護者の方がご同伴ください)



やきもの展示解説入門編

初心者向け、やきものの基本が分かる解説です。

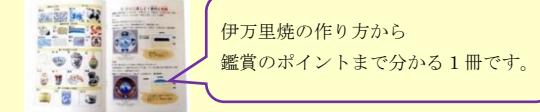
- 8月 3 日（金）～5 日（日）・8月 10 日（金）～12 日（日）

■各日 14:00～15:00

■ご参加の方に特製パンフレットプレゼント。

■予約不要

（入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください）



## 7月 20 日（金）から 8月 31 日（金）の間、小中学生は入館料無料。

### 当館学芸員による展示解説

- 第 2・第 4 水曜 14:00～15:00  
(7/11 7/25 8/8 8/22 9/12)
- 第 2・第 4 土曜 11:00～12:00  
(7/14 7/28 8/11 8/25 9/8 9/22)
- 予約不要（入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください）

### フリートークデー

展示室でお話ししながらご鑑賞いただけ  
る日です。

- 毎月第 4 月曜日 (7/23 8/27)
- 10:00～17:00（入館受付は 16:30 まで）

### 会期中のイベント

### 展覧会のポイントをお話しする ミニパネルレクチャーも開催。

- 14:00～14:30
- 予約不要（入館券をお求めの上ご自由に  
ご参加ください）

### 古伊万里植物図鑑展

会期：2018年7月4日（水）～9月22日（土）

会場：戸栗美術館

所在地：東京都渋谷区松濤 1-11-3

開館時間：10:00～17:00（入館受付は 16:30 まで）

※毎週金曜日は 10:00～20:00（入館受付は 19:30 まで）

休館日：月曜日

※7月 16 日（月・祝）、9月 17 日（月・祝）は開館、  
7月 17 日（火）、9月 18 日（火）は休館。

※毎月第 4 月曜日はフリートークデーとして開館。

入館料：一般 1,000 円/高大生 700 円/小中生 400 円（団体 20 名様以上で 200 円割引）

※7月 20 日（金）から 8月 31 日（金）の間、小中学生は入館料無料。

※9月 17 日（月・祝／敬老の日）は、65 歳以上の方は入館料無料。

受付にて年齢のわかるものをご提示ください。

交通：渋谷駅ハチ公口より徒歩 15 分、京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩 10 分

※当館には駐車場・駐輪場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。

### 美術館概要

戸栗美術館は、創設者 戸栗亭が長年に渡り蒐集した陶磁器を中心とする美術品を永久的に保存し、広く公開することを目的として、1987年11月に、旧鍋島家屋敷跡にあたる渋谷区松濤の地に開館しました。コレクションは伊万里、鍋島などの肥前磁器および、中国・朝鮮などの東洋陶磁が主体であり、日本でも数少ない陶磁器専門の美術館として活動しています。



### 展覧会に関するお問い合わせ

公益財団法人戸栗美術館

広報担当宛

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-11-3

TEL : 03-3465-0070

FAX : 03-3467-9813

E-mail : kouhou@toguri-museum.or.jp

URL : http://www.toguri-museum.or.jp/



# 植物モチーフに注目した展覧会

日本には、昔から四季折々の植物を楽しむ風習があります。特に工芸品には、それらをあらわしたもののが少なくありません。伊万里焼も例にもれず、形や文様が植物をモチーフとしたものが多くあります。子孫繁栄（瓢箪）や歳寒三友（松竹梅）、不老長寿（菊）など、中国から伝わった「吉祥の意」を内包しているものもありますが、中には中国由来の意味だけではなく、日本のなおめでたい意味を持つものもあらわされています。

伊万里焼の生産がはじまった江戸時代は、次第に園芸が盛んになり、植物栽培の手引書が多数出版された時代でもあります。菊番付などにみられるように、植物に対する賞玩文化が広がりを見せ、伊万里焼のモチーフにも身近な植物が採用されていきます。江戸末期には日本初の彩色植物図鑑が刊行され、以降の植物図鑑の礎を築きました。

今展では約80点の出展作品にあらわされた植物を江戸末期に刊行された『本草図譜』を参考に、図鑑形式にてご紹介いたします。これまで「動物」「唐草」「吉祥文様」などに注目した展覧会は開催してまいりましたが、植物モチーフ全般を一挙に取り上げるのは初めてのこと。古伊万里植物図鑑と一緒に紐解いてみましょう。

## 『本草図譜』とは・・・・・

幕府の下級武士である岩崎灌園（いわさきかんえん／1786～1842）によって編纂された日本初の彩色植物図鑑。文政11年（1828）に原稿が完成。全92巻（巻5～96）。従来の本草書の簡略な図版に不満を感じていたことを編纂の動機として挙げており、それをあらわすかのように植物ひとつひとつを見開きページに大きく描いています。

## 植物に込められた人々の願い

子孫繁栄、立身出世、富貴…：中国では、古くから物事や動植物などに特定の意味や願いを込め、生活中であらわしてきました。こういった、「吉祥」の意味をもつものの中には、日本においてもその意味を引き継ぐうちに中国の吉祥意として判断できないものも現れ、ひとつひとつモチーフに中國の意味を内包するものがみられるようになりました。

第1章では、伊万里焼にあらわされている植物の中で中国から「吉祥」の意味が渡来してきたものを中心にご紹介いたします。植物に込められた人々の願いとはどのようなものだったのでしょうか。

## 瓢箪



①染付 花唐草文 瓢形瓶  
伊万里  
江戸時代  
(17世紀末～18世紀前半)  
高 31.8 cm

花唐草で総体を埋めた瓢形の瓶。瓢は子孫繁栄の吉祥の植物。花唐草は伊万里焼の染付に多用された意匠であり、本作は特に大振りで華やかな表現。端正に成形された瓢形と濃厚な染付の発色が相俟って品格ある落ち着きを呈している。

## 松竹梅



②色絵 松竹梅文 瓶  
伊万里（古九谷様式）  
江戸時代(17世紀中期)  
高 17.9 cm

鮮やかな色絵で胴部に松竹梅文を描いた瓶。松竹梅は冬の寒さ、逆境に耐える高潔な植物として、中国では古来好まれた。本作は赤や緑、黒や紫を使い濃厚な色調であらわす。

## みどころ その二

### 江戸の人々に寄り添い、四季を彩る植物

#### 藤 一はる



藤は平安時代より鑑賞されてきた植物。江戸時代には陶磁器の文様としてあらわしたものや、なかには器形を藤の花房形にかたどった趣向を凝らしたものも作られました。

#### 茗荷 一なつ



※作品①～⑤の写真データ等をご用意しております。ご掲載の際は、別紙写真借用申請書をお送りください。

#### 椿 一ふゆ



色絵 花鳥文 面取壺  
伊万里（柿右衛門様式）  
江戸時代(17世紀後半)  
高 20.3cm

円筒形に成形したのち、14面に面取りした壺。頸部には赤の剣先文がめぐり、肩部は緑の唐草文で埋めた中に赤の花文を配す。胴部は椿と牡丹の間を優雅に飛ぶ鳳凰を描く。華やかさがありながら上品な仕上がりの優品。

#### 絵付け、かたち・・・

伊万里焼にあらわされた四季の植物をお楽しみください。

#### 次回展予告

『鍋島と古九谷一意匠の系譜一展』

2018年10月5日（金）～12月22日（土）

